

令和3年度（2021年度） 鴻池小学校 第3回学校運営協議会 議事録

1. 日 時 令和4年3月9日（水）18:00～19:15

2. 場 所 鴻池小学校 視聴覚室

3. 参加者 協議会委員 : 阪田会長・寺西副会長・堤委員
清水委員・中川委員
教職員 : 宮谷校長・安井教頭
その他 : 欠席者 3名
(北田委員・大西委員・水國CSディレクター)
※議事録は教頭作成

4. 学校長あいさつ

本年度もあと残り3週間となったが、コロナの状況がいつ落ち着くかわからない状況が続いている。現在も、学年及び学級閉鎖がある。18日（金）に卒業式を予定しているが、もし1クラスが学級閉鎖期間と重なった場合は、そのクラスのみ延期することとなっている。学年閉鎖になった場合も、24日（木）午後に延期する旨保護者にお知らせした。なんとか揃って予定通り式が出来ることを願っている。

5. 内容

(1) 3学期の学校運営について（学校長より）

1年を振り返ると、10月1日～1月中旬にかけての時期、主に2学期だけが予定していた行事を行えたように思う。体育大会、音楽会、修学旅行は開催方法を工夫して予定通り行うことができた。

オミクロン株は子どもにも教師にも感染が広がり、自宅待機や在宅勤務をせざるを得ない時期であったが、この1ヶ月で、ICTの活用が非常に進んだ。1月と2月に予定していた授業参観と学級懇談会は、Zoom開催で行うことができた。閉鎖期間中のオンライン学習等について、得意でない教師もいる中、変化についていき、変化の見通しが持てる良い教職員集団となっている。自宅待機だけでなく、学校に来にくい児童についても、「学びを止めない」取組を行えていると思う。

リアルな体験をすることが一番良いが、そうも言えない状況である。デジタルとのハイブリッドの学びをすすめる、ターニングポイントの時期であると考えている。

変化の見られた3学期となったが、教師も子どもも「やってみよう！」と前向きに捉えてくれた。

(2) 学校関係者評価について

【基礎基本】朝学習は100%取り組んでいる。今後は質的な向上が課題。

1日10分の朝学習ではあるが、1週間で50分となる。質の差は大きい。自主学習の取組について、保護者は58%の回答。学習の定着につながっているのか、どんな学習をしているのかが見えにくい。「何でもいい」ではいけないので、子どもたちの取組を紹介したり、頑張りにコメントを添えたりすることが必要と考える。

【授業改善】今年度は校内研究として、4本の授業公開をした。学団及び特別支援学級で授業内容を考えた。来年度は11月に市内発表を控えている。本校の研究では「課題設定」「話し合い活動」「振り返り」を3つの柱としている。学習意欲の向上は先生にかかっている。例えば、テストの間違いなどについても、「なぜ間違っただろうか」という共有から、学びを充実させることが大切である。

(阪田委員より) Zoomで参観・懇談やオンライン学習をこれだけ進めているのは、他に例がないように思う。各家庭全てがその学習環境を準備するのは難しいと思うが、どのように協力してもらっているのか。

→Zoomの参観・懇談については、各クラスのURLやパスワードを設定した上で、QRコードも作成し、できるだけわかりやすくアクセスできるよう手紙を作成した。

→現在は教師用タブレットが貸与されていないため、教師が個人で所有しているタブレットを使って在宅で発信するなど協力してくれている。

(堤委員より) 保護者がとても協力してくれているし、先生方もかなり取り組んでくださっているのがよくわかる。中学校ではiPadの使い方がひどく、教師が預かるようなこともあると聞く。

→Zoomの使い方は教師がどんどん工夫をしてくれている。ICTが得意な先生が中心となって、よくやってくれている。タブレットの使い方が上手になると、その分問題も出てくる。今年とはとにかく使い慣れることを一番に考えたが、来年度は基本ルールを設けて、自己管理ができるようにしていきたい。保護者も把握し切れていないところがあるので、家でも学校でもルールを守れるようにしていきたい。

【読書活動】子どもが読書をしているという点については、保護者は39%の回答。タブレットを使用することが多く、本を読む姿がなかなか見られないことが原因と考える。学校では、朝読書やすきま時間での読書など、実際にはよく本を読んでいる。図書の貸し出し数も多い。教師や高学年の「おすすめの本」お知らせや、読書ビンゴの取組を行ってきた。小さい頃の読書経験は大切で、「読むこと」によって世界が広がる。今後も取組をしていきたい。

(堤委員より) コロナのこともあり、「物を共有しない」という考えが浸透してきている。その影響で、地域の図書館の利用をためらう傾向にある。

→図書の貸し借りの前には手洗いの指導を徹底するなど、今後も続けていく。

【道徳教育】「自己有用感」について、児童は90%の回答。自尊感情を育むため、次へのステップが求められる。何かを高める活動が必要。PTAの「ほめてもら王カード」などの取組も良い。

(清水委員より)「自分が一番好き」と言えることが必要だと思う。

→10あるうちの1でもできることがあり、それを突き詰めるようにすればいい。

それを見つけるのも教師の役割だと考える。

【生活指導】いじめアンケートの徹底。生活目標は、教師発信→一緒に考える段階になった。今後はもっと子ども主体の取組しなければならない。生活目標の

「意味を伝える」ことを大事にしたい。

本校の委員会活動はすべて横並び、フラットな位置づけにあるため、児童会などをまとめ役の位置にしていきたい。

【健康教育】 体力の向上と外遊びはイコールではない。体育の授業で取り組むべきことと、個々に好きなことに取り組む時間と分けることが必要。教師が外で一緒に遊ぶことで、普段見せない子どもの姿を見ることができる。休み時間の使い方は様々で6年生は校長室によく来て色々な話をしている。

(寺西委員より) 「校長先生と話せる」機会は、とても喜ばれていると思う。

(清水委員より) 担任でも親でもない人と話せることはとても良いことで、その役割を校長先生が担ってくれている。

(堤委員より) 「話を聞いてほしい」「受け止めてほしい」という思いは、子どもも大人も一緒である。

【開かれた学校】 ホームページの毎日更新、学校通信、学校長の部屋の配信

【その他】

- ・コロナ対策委員会を定期的に開催
- ・避難訓練は「実際に起きた時のことを想定」するため、コロナは関係なく、運動場に集合する訓練を実施。
- ・教師のワークライフバランスとして、働き方改革を進めている。「働き方改革」＝教師が子どもと向き合う時間の確保という考えを徹底。タイムマネジメントの見える化を推進

(3) 来年度の学校運営方針について

- ・来年度のキャッチコピー「失敗を恐れず、まずはやってみよう！」
- ・基礎基本の指導、一人ひとりを大切にする取組を通じて自己有用感を育てる

6. その他

【来年度の委員委嘱】

阪田委員、北田委員、堤委員は継続

寺西委員→自治会長の後任である、松原さんが委員を引き継ぎ

清水委員、中川委員、大西委員→PTA内で松居さん、寺井さん、銀杏さんに引き継ぎ

CSディレクター水國さん→馬殿さんに引き継ぎ

【来年度の会の運営】 子どものいる時間に授業や行事が参観できるよう、会を設定

7. 閉会あいさつ（阪田会長より）

先生方の頑張りが聞けて、心強く、嬉しく思っている。総括表は委員の皆さんの意見を記入して、学校まで提出をお願いします。一人ひとりが孤立せず、先生方も横のつながりを持ち、抱え込まないように取り組んでいただきたい。